

## 中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	経済産業省の役割と働く職員の日々を聞く
調査日	10月28日 13:00～15:00
調査先	経済産業省 産業技術環境局 環境経済室 総括補佐 荒井次郎 氏 通商政策局 経済連携課 課長補佐 高橋拓磨 氏
担当教員身分・氏名	准教授 国松麻季
授業科目/学部企画名	訪問調査(「企業訪問」)
参加学生数(学年)	1・2年生 43名
調査趣旨・目的	経済産業省の全体像、キャリア、最近の課題や取り組み、職員の業務などにつきご説明を聞き、質疑応答を行う。
調査結果	<p>荒井総括補佐、高橋課長補佐より経済産業省でのキャリア、その中で心掛けてきた点や現在の課題についてそれぞれプレゼンテーションしていただいた。その後、質疑応答を全体で行い、後半は2グループに分かれて学生からの質問に答えていただいた。</p> <p>プレゼンテーションでは、経済産業省の特徴の一つである2、3年ごとの人事異動による様々な経験、産業界とのネットワーク形成、「脱炭素化」や「空飛ぶタクシー」、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い「人工呼吸器の確保」などの個別事項など多くの点が学生の関心を刺激した。</p> <p>グループでの質疑応答においては、「大学生時代にやっておくべきこと」と「なぜ民間企業で働くことではなく、国家公務員を選んだのか」と質問があり、英語の学習や留学を更にやっておけばよかったこと、国を動かすような仕事に携わりたかったこととお答えいただいた。さらに、新しく出会う方との関係構築や就職活動時へのアドバイスとして新聞を用いて「自分の興味は何か」を探り、「自分の意見を持っておくこと」とお答えいただいた。</p> <p>ご対応いただいたお二人は、昨年に引き続き、お忙しい中プレゼンテーション用のスライドをご用意していただき、今後も質問等があれば遠慮なくお受けしたいとの有難いお申し出をいただいた。行政機関にお勤めの方とお話する機会が初めてという学生も多く、学生の事後レポートからは経済産業省だけでなく行政機関に対するイメージが変化したとの報告もあった。さらに、今回の訪問が修学や進路の検討において大きな刺激になっていることが把握された。</p>

当日の様様（オンラインと対面を組み合わせたハイブリット方式で開催しました）

